

Technical support advisory 051018a

DEQXを2台使用した4 and 5 way システム調整法

ここでは、DEQXを複数台使用して3Wayを超えるシステムの構築方法について述べる。

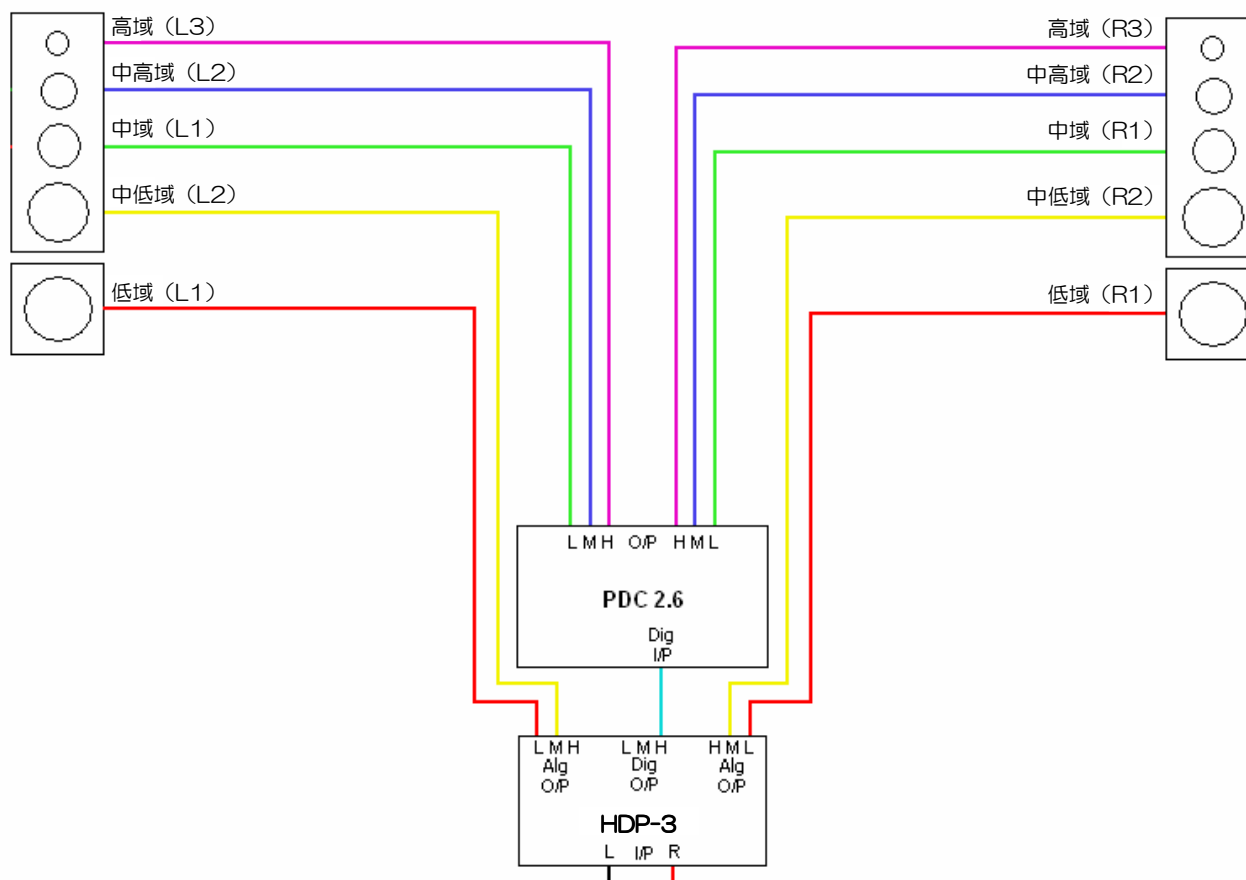
用意するもの：

- DEQXの調整用ソフトウェア（Calibration software）
- DEQXのインストレーション マニュアル
- デジタル出力ボードを搭載したHDP-3を1台
- 標準タイプのPDC 2.6Pが1台

調整に当たって：

この説明書は、実施者がDEQXの調整経験を持ち、2Way または 3Wayのスピーカーシステムの測定、調整、設定ができて、クロスオーバーの各種設定が可能であることを前提としています。

図は5Way用の標準設定を示します。





kurizz-Labo
Kurihara Nobuyoshi
Tel: 0267-45-6166
Email: contact@kurizz-labo.com

Technical support advisory 051018a

接続：

システム構成は前ページの図を見て下さい。（図は5Wayの場合です）

- ・ 4-way+サブウーファの場合、同様の接続で低域がサブウーファとなります。
- ・ 4-wayの場合は図の中域（L1、R1）を使用しない接続となります。

2台のDEQXの役割と呼び方：

- ・ 中域、中高域、高域をコントロールする DEQXを“SLAVE（スレーブ）”と呼びます。
- ・ 低域、中低域をコントロールする DEQXを“MASTER（マスター）”と呼びます。

- 測定マイクとパソコンをPDC-2.6Pに接続し、マイクは左chスピーカーにセットします。

測定と設定：

- ・ 中域、中高域、高域を“Tri-amp”に設定して測定します。
- ・ マイクの位置はそのままにして“Calibrate wizard”でクロスオーバーを設定します。
- ・ Correction Filterを生成し“Verification Measurement”を実行します。
- ・ 高域側の3Wayがフラットであれば“PDC configuration”で Correction Filterを左側に適用します。
- ・ Profileの1～3に設定（同じでよい）します。Bypassにはクロスオーバーのみを設定します。
- ・ 設定情報をPDC-2.6Pに転送します。
- ・ TOOLSメニューからOPTIONSを選びDisable the remote controlにチェックマークを入れます。
- ・ 入力をデジタルに設定し、Profile（1～3）を選択。入力信号のない状態でボリュームをフルにセットします。
- ・ マイク位置はそのまま、PDC-2.6PからマイクとPCを外し、マスター側のHDP-3に接続します。

注意：スレーブ側のPDC-2.6Pとマスター側のHDP-3はデジタルで接続し、マスター側（HDP-3）のボリュームコントロールをデジタルに設定（アナログボリュームを外す）します。

- ・ HDP-3も“Tri-amp”に設定します。PDC-2.6PはHDP-3から見るとツイーターとして扱われます。
- ・ 左側スピーカーを測定してクロスオーバーを設定し、Correction Filterを生成します。
- ・ “Verification Measurement”を実行してフラットであれば“PDC configuration”を行います。
- ・ Correction Filterを左側に適用すると、左側chの5Wayはセットが完了します
- ・ Profileの1～3を設定します。Bypassにはクロスオーバーのみを設定しHDP-3に転送します。
- ・ マイクを右chに移動し、距離を正確に同じにします。そして、左chと同様に測定と設定を行います。
- ・ 訂正フィルタを作成する時、右側だけのものは作成せず、左右の測定結果から新しいCorrection Templateを作り、左右のフィルタを同時に作成してください。これが5Way用のCorrection Templateになります。
- ・ Room測定はHDP-3で通常通りに行い、Auto EQで定在波を補正して完了です。

参考：

- ・ 室内の音響特性の影響もあるので、最終的にはマニュアルEQで補正した方が良い時もある。